

# 共生環境学科・環境情報システム学教育コース カリキュラムマップ

2020年4月 作成

## 改訂履歴

2020年4月29日	マップ作成
2021年1月4日	表紙に学科名を追加
2021年2月19日	DPとコース教育目標の表示順を入れ替える

## 学部ディプロマポリシーとコース学習教育目標との関係

- |  |                       |
|--|-----------------------|
| (1) 幅広い教養と倫理観、国際感覚を身につけ、豊かな人間性を有している。          | ← A, B                |
| (2) 生命、環境、食料、健康等に関する生物資源学の基本的な知識と技術、経験を有している。  | ← B, E                |
| (3) 科学的で論理的な思考を展開することができ、計画的に問題の解決に取り組むことができる。 | ← A, E, F, G, H       |
| (4) 豊かなコミュニケーション能力を持ち、他者と協力して行動することができる。       | ← C, D                |
| (5) 社会の変化に柔軟かつ自律的に対応し、発展的に生きていくことができる。         | ← B, D, E, F, G, H, I |

## 環境情報システム学教育コース学習教育目標

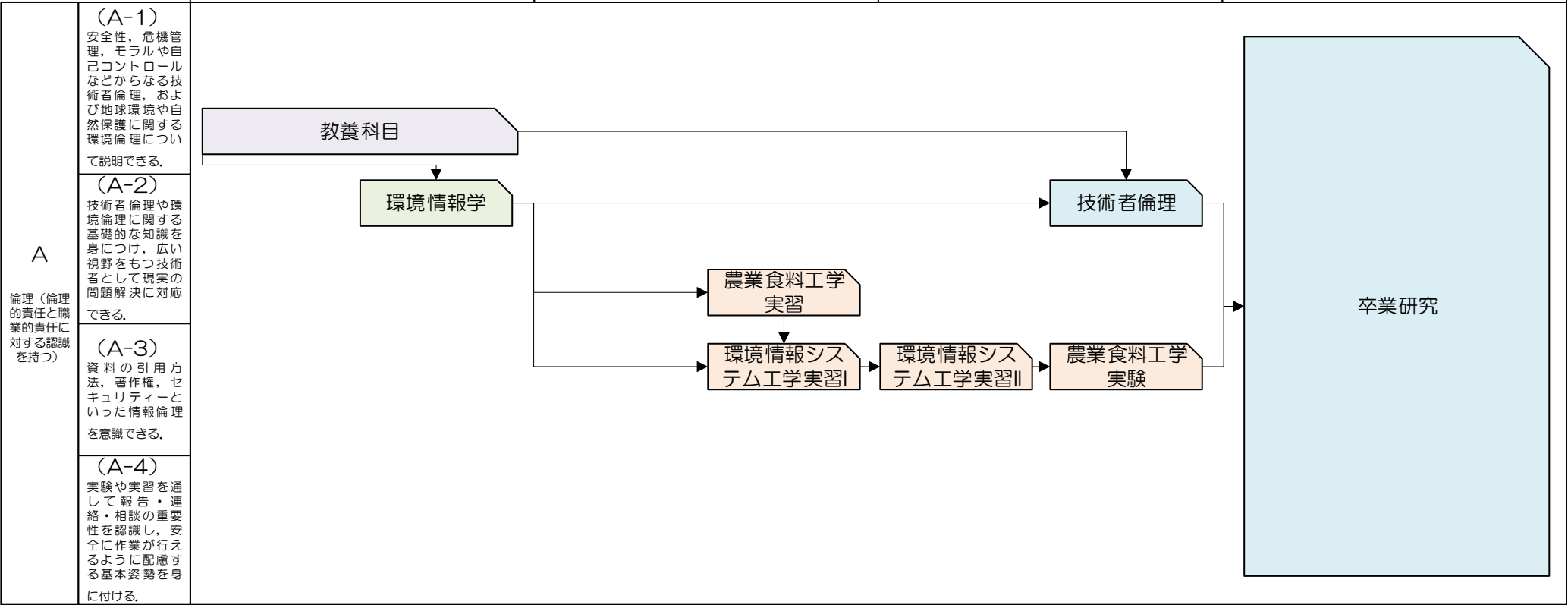
- A 倫理（倫理的責任と職業的責任に対する認識を持つ）
- B 諸問題の認識とグローバルな視点
- C チーム活動
- D コミュニケーション
- E 環境・情報・システム工学に関する専門知識
- F 問題解決能力
- G データ読解力
- H 実験計画
- I 問題設定・デザイン力

教養科目 学部必修 学科必修 コース必修 選択

表中の科目は全てがコアとなる授業科目

環境情報システム学  
教育コース

1年 2年 3年 4年



教養科目

学部必修

学科必修

コース必修

選択

表中の科目は全てがコアとなる授業科目

環境情報システム学  
教育コース

1年

2年

3年

4年

(B-1)  
地球規模の環境問題に関する基礎知識を持ち合わせ、概要を説明できる。

(B-2)  
関連する専門分野の諸問題について、その背景を踏まえながら、客観的に検討することができる。

(B-3)  
問題を解決する方策が、社会や環境に影響を及ぼす可能性があることを認識している。

(B-4)  
様々な現場や領域に飛び込み、経験することにより、自分の価値観に束縛されず、複数の視点から物事を冷静に判断できる。

(B-5)  
設定された問題を複数の視点から検討するために、国内外を問わずインターネットを使って情報を検索し、問題の本質を認識しようとする姿勢が身に付いている。

(B-6)  
ベンチャーの起業家としての資質を学ぶ。起業に当たっての必要事項を理解する。起業に必要な特許取得、特許調査及び特許活用について学ぶ。

B

諸問題の認識とグローバルな視点

教養科目

生物資源学総論

フィールドサイエンス体験演習

共生環境フィールドサイエンスセミナー

将来気候予測論

地球環境学概論

環境保全生態学

生物圏循環学

環境情報学

農業食料工学実習

環境情報システム工学実習I

環境情報システム工学実習II

農業食料工学実験

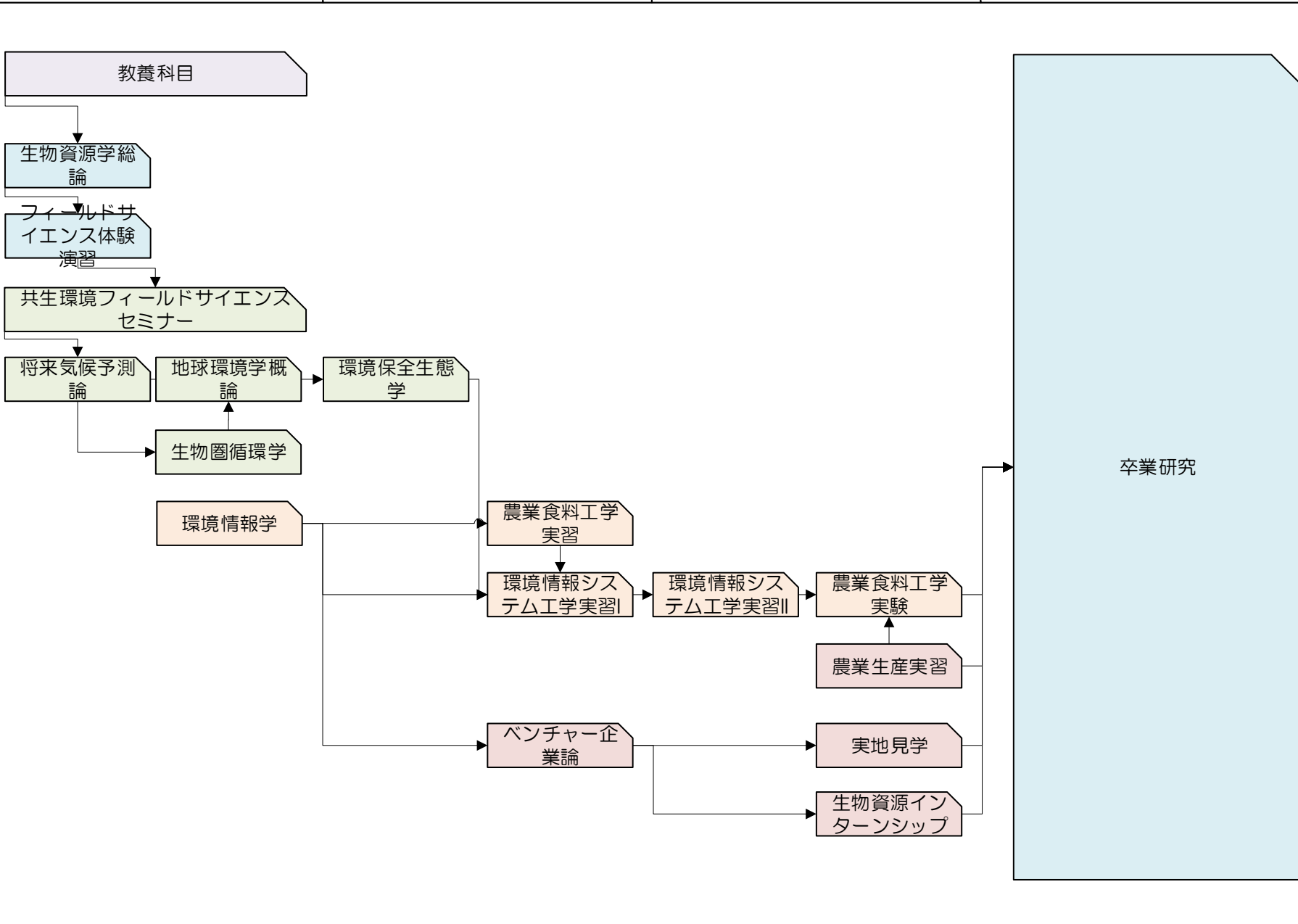
農業生産実習

ベンチャー企業論

実地見学

生物資源インターンシップ

卒業研究

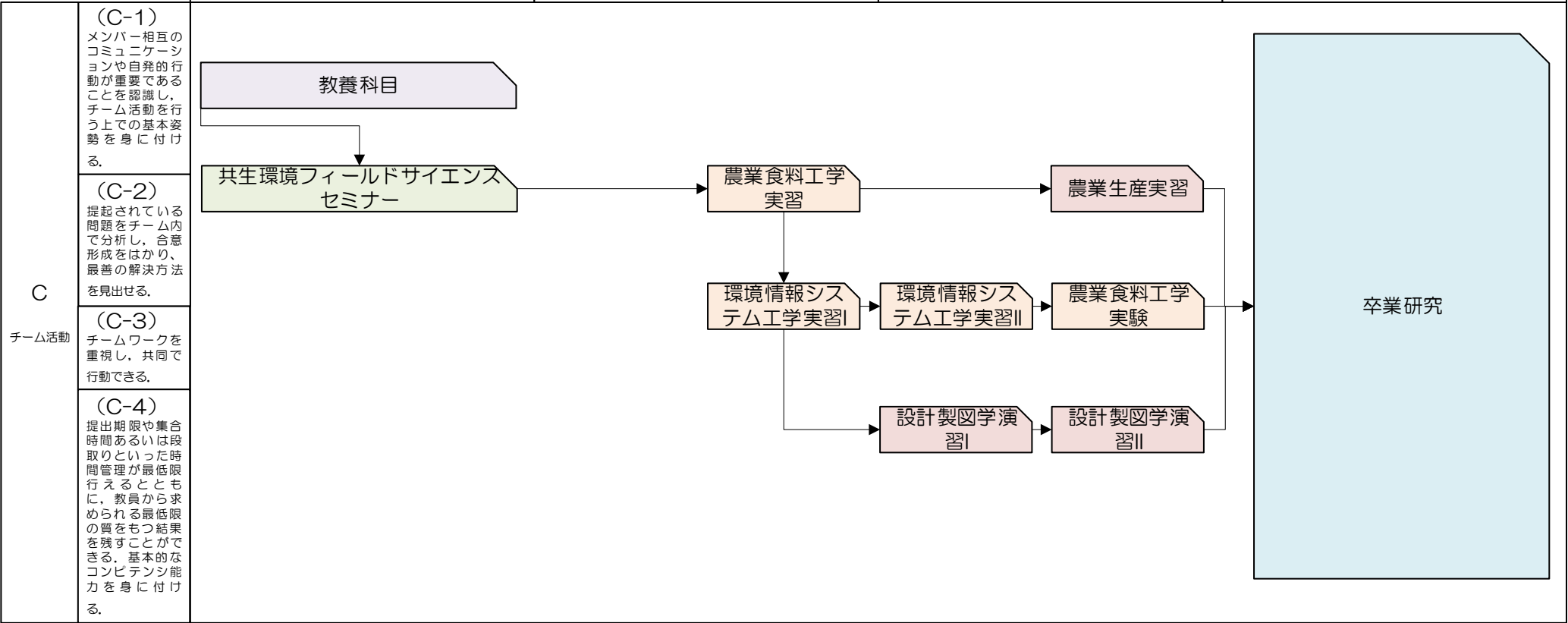


教養科目 学部必修 学科必修 コース必修 選択

表中の科目は全てがコアとなる授業科目

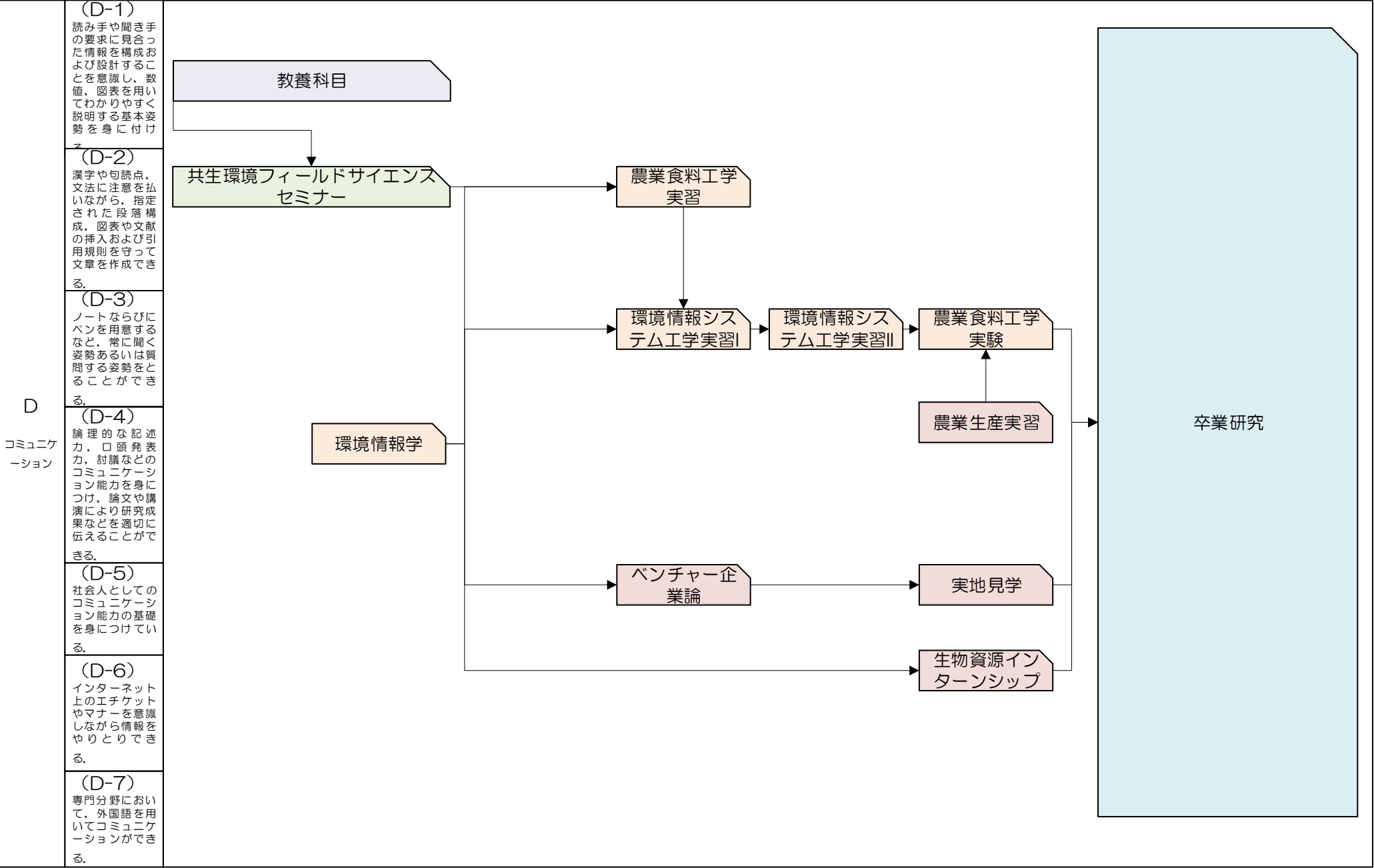
環境情報システム学  
教育コース

1年	2年	3年	4年
----	----	----	----



環境情報システム学  
教育コース

1年	2年	3年	4年
----	----	----	----



教養科目

学部必修

学科必修

コース必修

選択

表中の科目は全てがコアとなる授業科目

環境情報システム学  
教育コース

1年

2年

3年

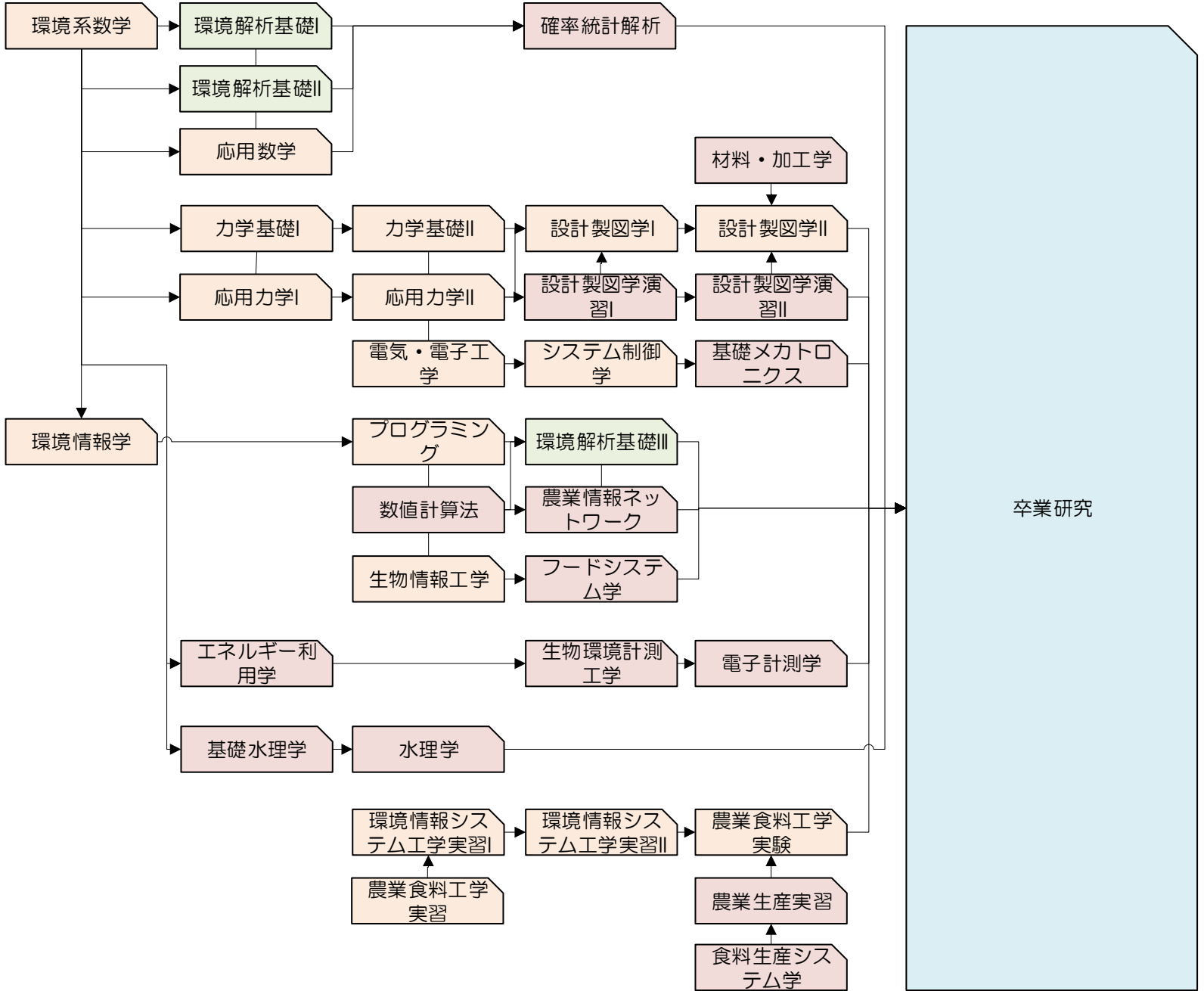
4年

- (E-1) 環境・情報・システム工学に関連する幅広い専門知識を有する。
- (E-2) 機械力学および材料力学の基礎を有する。
- (E-3) 微分方程式、線形代数といった数学の基礎を有する。
- (E-4) 熱力学の基礎を有する。
- (E-5) 流体力学の基礎を有する。
- (E-6) 電気電子、電磁気の基礎を有する。
- (E-7) エネルギー利用に関する基礎を有する。
- (E-8) プログラミングのスキルを有する。
- (E-9) 統計解析の基礎を有する。
- (E-10) 数値計算の基礎を有する。
- (E-11) 論文、レポート作成するための作文スキルを有する。
- (E-12) 論文、レポート作成するための情報リテラシーに関するスキルを有する。

E

環境・情報・システム工学に関する専門知識

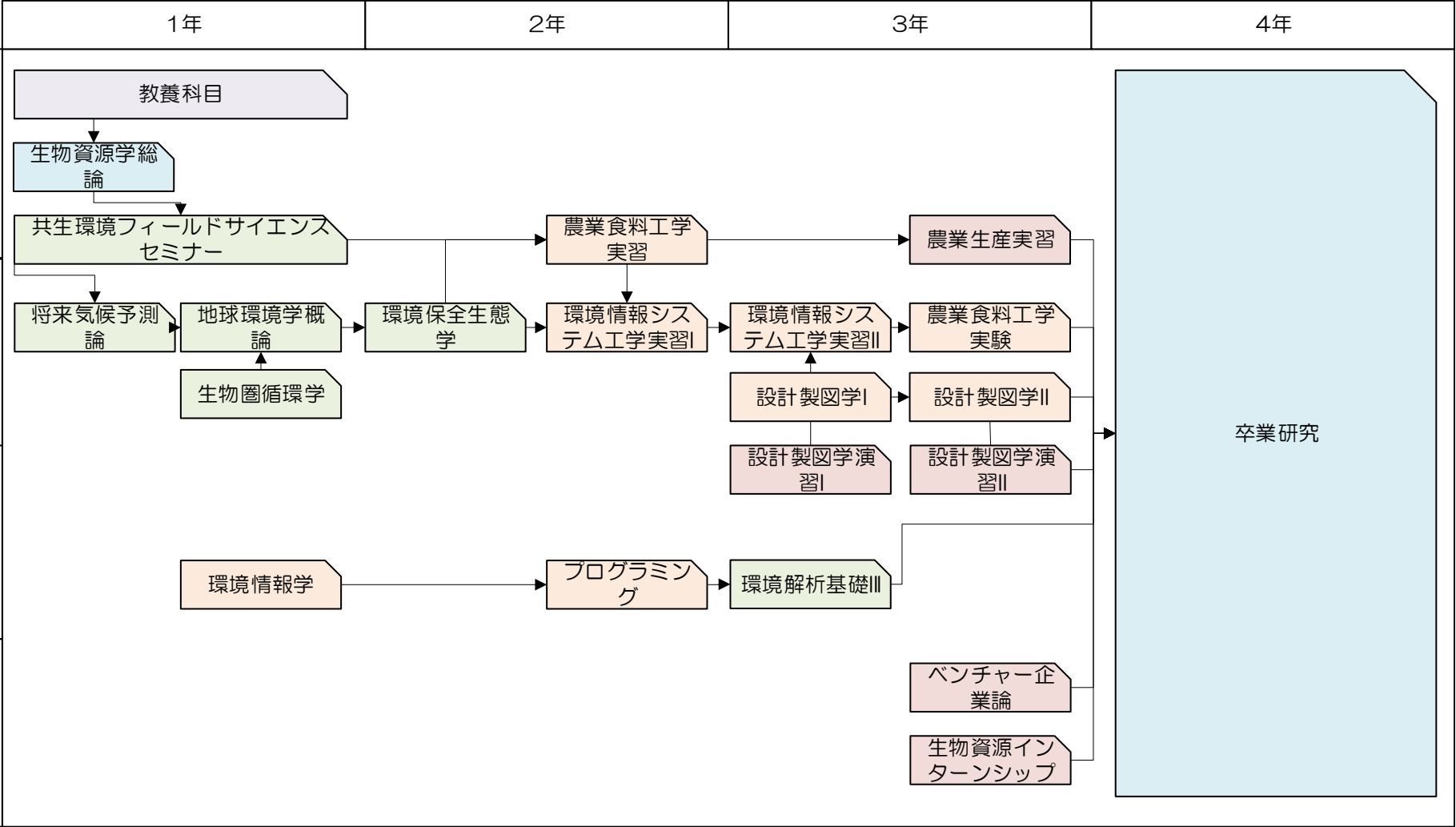
教養科目



教養科目 学部必修 学科必修 コース必修 選択

表中の科目は全てがコアとなる授業科目

環境情報システム学  
教育コース





教養科目

学部必修

学科必修

コース必修

選択

表中の科目は全てがコアとなる授業科目

環境情報システム学  
教育コース

1年

2年

3年

4年

(G-1)  
教員から指導を受けた正しい方法、正しい手順でデータを収集および提供できる。

(G-2)  
必要な情報を検索する能力を持ち、収集した情報を整理、要約できる。

(G-3)  
取得データを、教員が指導する適切な方法で、適切な形に加工することができる。

(G-4)  
取り扱う数値データの単位を理解することができる。またミスなく計算することもできる。

(G-5)  
取得したデータについて統計処理を行い、誤差の分析や原因究明を行える。

(G-6)  
取得したデータを図表に作成し、考察を加えることにより妥当な結論を導くことができる。

(G-7)  
プログラミング言語の一つであるC言語の基本を習得し、ソースコードを読み解する素養を身に付ける。

G  
データ読解力

教養科目

環境情報学

プログラミング

数値計算法

生物情報工学

農業食料工学  
実習

環境情報シス  
テム工学実習I

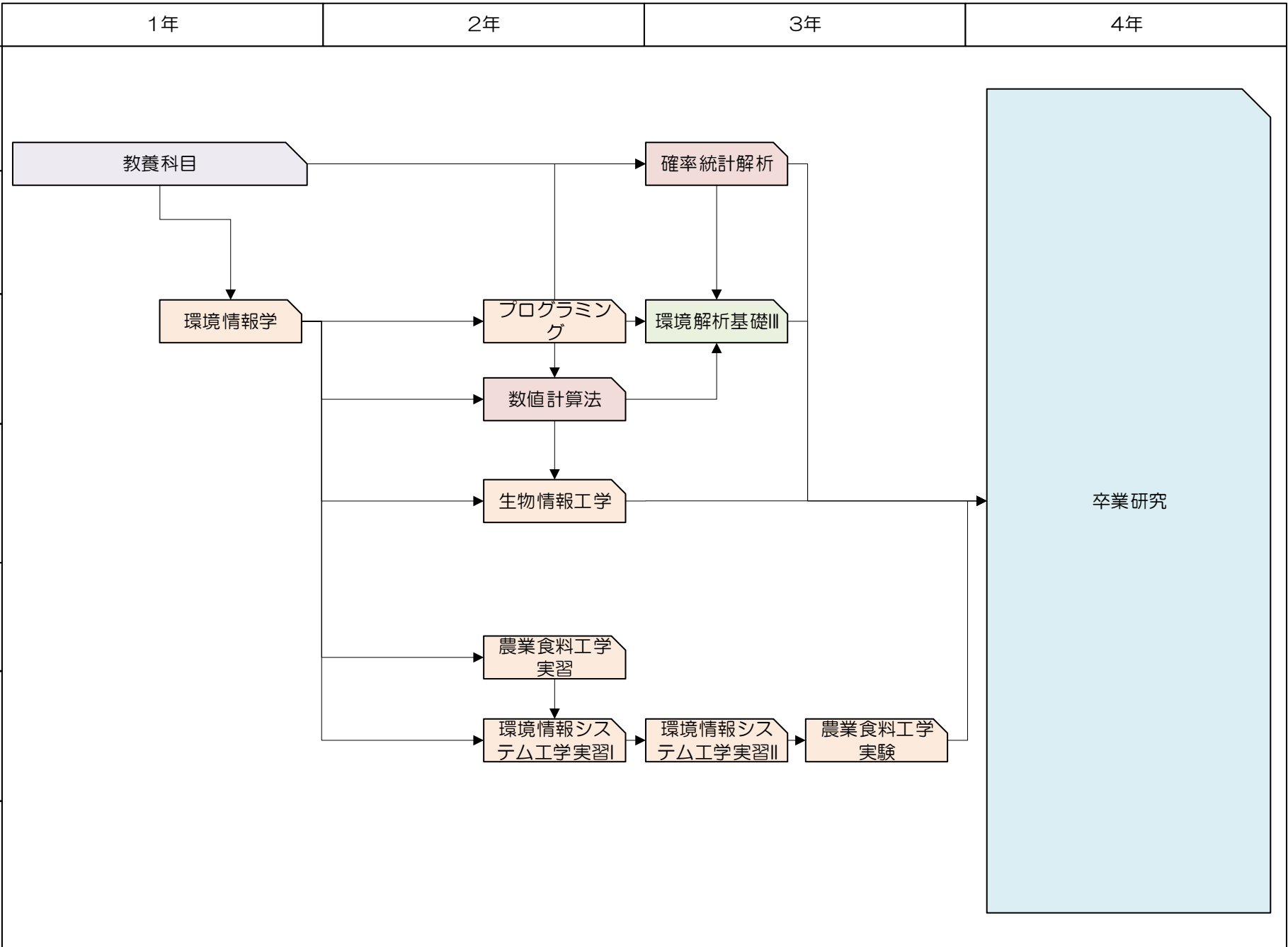
環境情報シス  
テム工学実習II

農業食料工学  
実験

確率統計解析

環境解析基礎III

卒業研究



教養科目

学部必修

学科必修

コース必修

選択

表中の科目は全てがコアとなる授業科目

環境情報システム学  
教育コース

1年

2年

3年

4年

H  
実験計画

(H-1)  
実験で検証すべき問題および得るべき目標を明らかにし、実験計画を立てることができる。

(H-2)  
問題を解決するために立てた仮説を、実験により検証することができる。

(H-3)  
実験結果の再現性を確認するための繰り返し実験の重要性が説明できる。

(H-4)  
実験機器の動作原理を理解し、操作できる。

(H-5)  
現象にあわせて計測機器や計測技術を適切に選択し、データを収集することができる。

農業食料工学  
実習

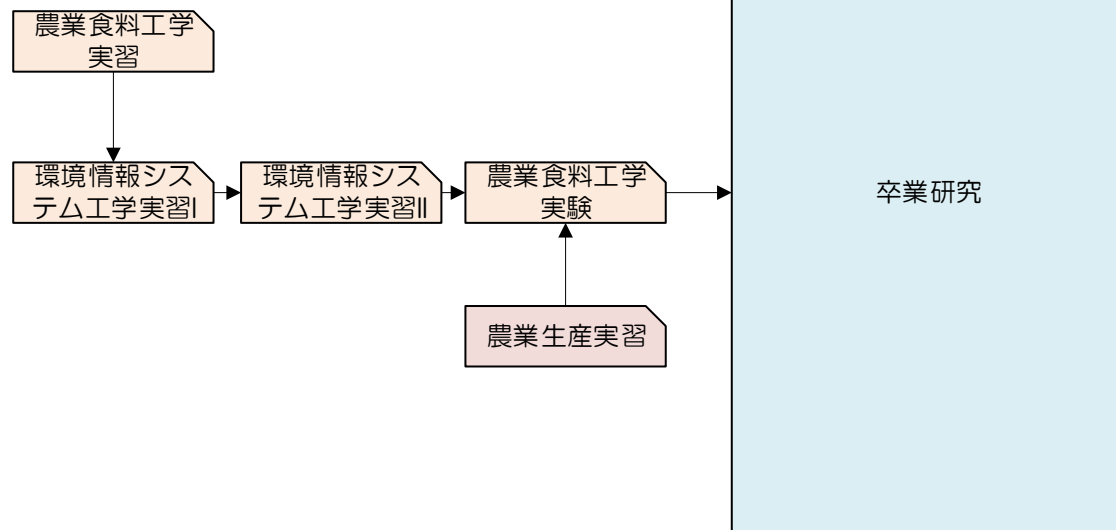
環境情報シス  
テム工学実習I

環境情報シス  
テム工学実習II

農業食料工学  
実験

農業生産実習

卒業研究



教養科目

学部必修

学科必修

コース必修

選択

表中の科目は全てがコアとなる授業科目

環境情報システム学  
教育コース

1年

2年

3年

4年

